

市民文教委員会

天竜区

天竜区路線バス地域振興効果測定業務の報告について

1 概要

袋井駅から森町を経由し天竜区春野町に向かう民間路線バス「秋葉バス秋葉線（以下「秋葉線」という。）」の利用状況を分析し、本市にもたらす地域振興効果を検証することを目的に実施した委託業務の結果を報告するもの。

○天竜区路線バス地域振興効果測定業務

- (1) 委託期間 令和 7 年 1 月 31 日～3 月 31 日
- (2) 委託先 一般財団法人しんきん経済研究所
- (3) 契約金額 2,640,000 円（中山間地域活性化事業）

2 課題

- ・中山間地域を運行する区間では沿線人口が少なく、コロナ禍の影響や災害による道路不通に伴う運休等により、利用客数が減少している。
- ・複数の市町を跨ぐため、国県の地域間幹線系統の補助を受けているが、それでも生じる欠損額は、沿線市町（浜松市、袋井市、森町）が運行距離に応じて補填している。

3 分析結果（別添参照）

（1）秋葉線利用状況

- ・秋葉線の浜松市区間のバス停の年間乗降客数（令和 3 年度）のうち、春野校舎バス停の乗降客数が 45%、その他バス停の乗降客数が 55%であった。
- ・高校通学以外でも、春野中学校への通学や気田に存する施設への買い物・通院目的利用など、春野町民の生活の足として重要な交通手段となっている。

（2）春野校舎の存在による効果

- ・春野町に定住している春野校舎（旧春野高校）卒業生の推計人口（20～60 歳代を設定）399 人と家計調査の年間消費額を基にした 1 年あたりの市内経済波及効果は 5.1 億円と測定した。
- ・春野校舎在校生へのアンケート調査では、秋葉線利用生徒は非利用生徒と比較して、将来的に春野町への居住や就職の意向が高い傾向が見られた。

（3）秋葉線が廃線した場合の地域に与える影響

- ・秋葉線で春野校舎に通学する 1 年生は、令和 3 年以降半数以上を占めており、秋葉線の廃線は新規生徒の半減に繋がり、春野校舎の存続が困難となる。
- ・春野校舎が廃校になった場合、地域人材の育成など高校の存在が地域にもたらす効果が消滅し、春野町の衰退が急激に進むことが推察される。

4 今後の方針

- ・2025（令和 7）年 5 月～：今後の秋葉線のあり方について関係部局・機関と協議

秋葉バス「秋葉線」地域振興効果測定業務に関する報告書（サマリー）

1 秋葉線の利用状況の分析

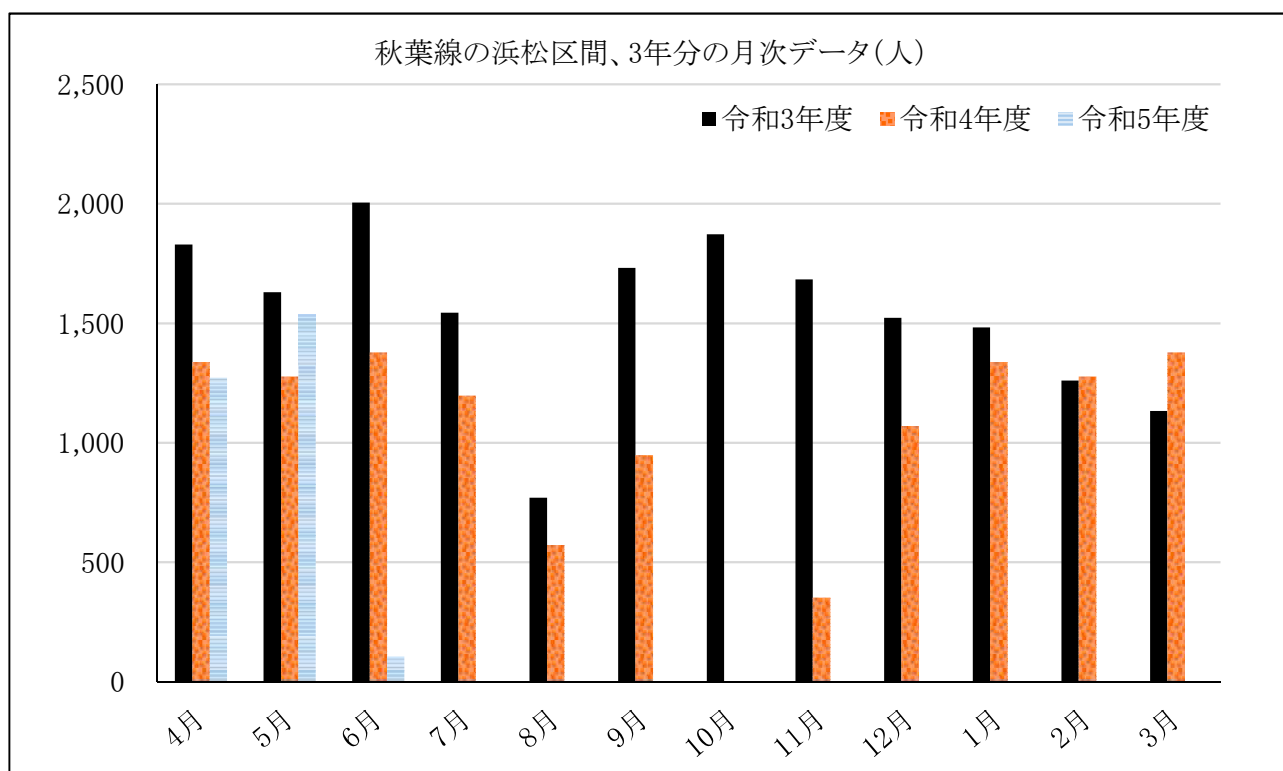
- 秋葉線の利用状況の分析にあたり、令和3年度～令和5年度の乗降客数を集計した。なお、令和4年9月24日～令和4年11月20日、令和5年6月3日から令和6年3月31日の期間は、大雨等を原因とする道路災害により運休した（再開は令和7年1月6日）。

【令和3年度乗降客数】

秋葉線の年間乗降客数 139,790 人 (令和3年度)	浜松市区間のバス停乗降客数 18,458 人 (13%)
	袋井市、森町区間のバス停乗降客数 121,332 人 (87%)

浜松市区間の バス停乗降客数 18,458 人	春野校舎バス停乗降客数 8,326 人 (45%)
	その他のバス停乗降客数 10,132 人 (55%)

【年度別乗降客数】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	運休期間
令和3年度	1,829	1,629	2,004	1,544	769	1,731	1,872	1,683	1,522	1,482	1,260	1,133	18,458	
令和4年度	1,337	1,276	1,377	1,197	572	948	-	352	1,070	1,337	1,276	1,377	12,119	9/24～11/20
令和5年度	1,272	1,535	105	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,912	6/3～3/31
令和6年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,200	1,024	-	-	4/1～1/5

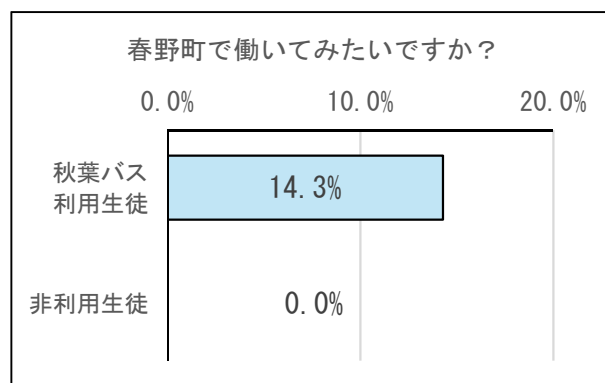
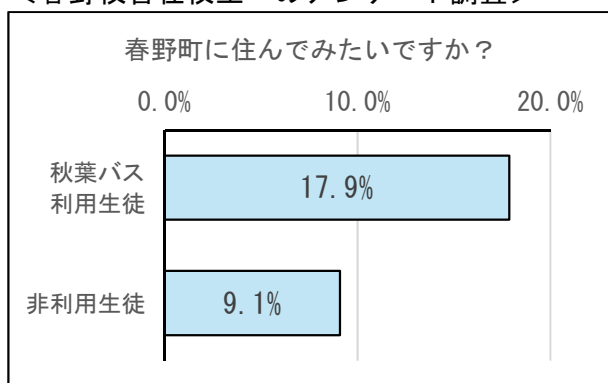


- ・春野町における乗降客数は一定数存在しており、春野町民の生活の足として重要な交通手段となっている。
- ・市内最大の乗降客数となっている「天竜高校春野校舎」バス停の乗降客は、学生による通学利用が大半であると推察される。
- ・「天竜高校春野校舎」バス停以外の乗降客は、主に中学生が「春野中学校前」バス停を通学に利用しているほか、春野町民が「気多」バス停を商業施設への買い物や医療機関への通院に利用していると推察される。
- ・次頁の2で、利用目的が市内最大となっている春野校舎が地域に与える効果について分析を行う。

2 春野校舎の存在による効果

- 一般的に、地域への高等学校の存在は、定住人口の増加、地域の活性化と維持への協力、地域文化の継承といった効果をもたらすことが期待される。
- 春野校舎卒業生のうち、卒業後に春野地域に定住している推計人口は 399 名である。なお、定住人口の対象は町内経済を支える基盤である 20～60 代と設定した。
- 推計人口と家計調査の年間消費額を基に、1 年あたりの経済波及効果を推計すると、5.1 億円となった。
- 春野校舎在校生へのアンケート調査から秋葉線利用生徒は非利用生徒と比較して、将来的に春野町への居住や就職の意向が高い傾向が見られた。

<春野校舎在校生へのアンケート調査>



- 事業所ヒアリング調査では、多くの事業者が従業員の高齢化と若手人材の不足を課題とするとともに地域の衰退化に強い懸念を抱いており、春野校舎出身者の採用意向が示された。

<ヒアリングで聞かれた事業者の声>

街の維持・発展がないと事業の継続も難しい。会社は新分野に乗り出しているため、新しい若い人材が欲しいと思っている。

企業立地面で、春野町から人材採用したく春野校舎にも求人を出しているが、数年は採用できていない。

令和 4 年度に春高卒者を採用した。これからも条件が合えば採用したい。

- 自治会関係者へのヒアリング調査では、春野校舎への思いと秋葉線の運休による地域への影響が聞かれた。

<ヒアリングで聞かれた自治会関係者の声>

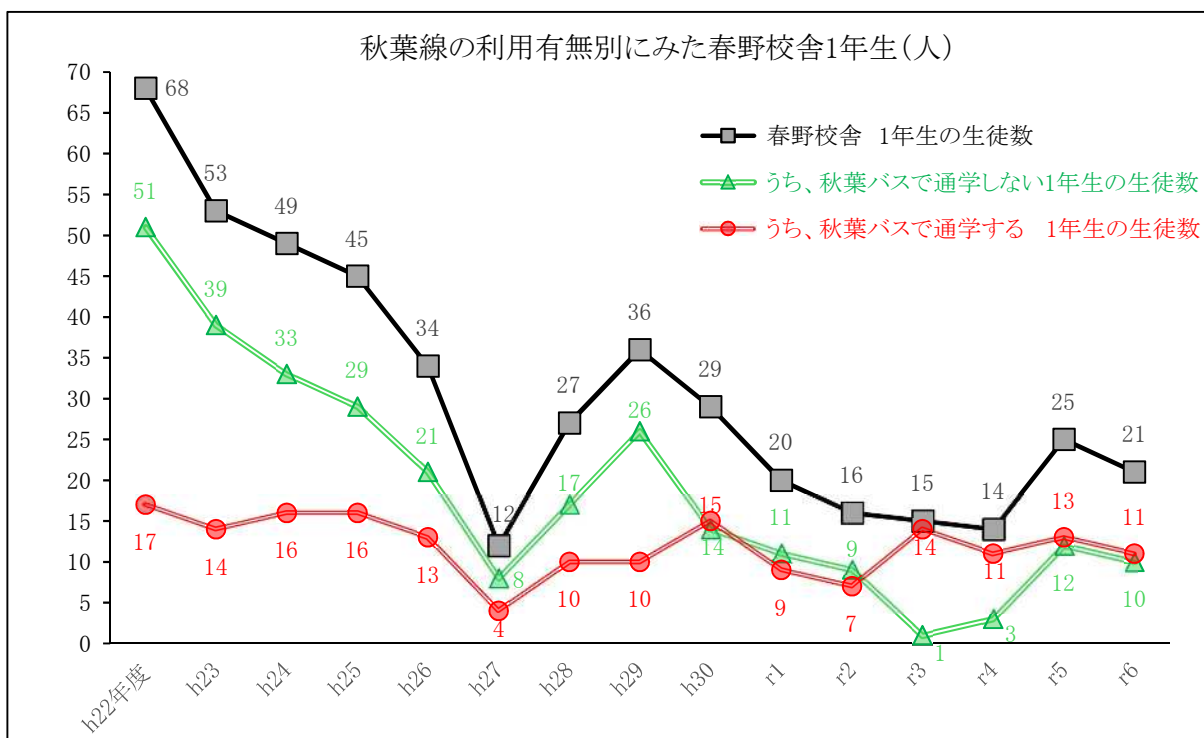
運休時は、高校側としても、始業時間を遅らせたり授業時間を短縮したりと難儀したと思う。廃校になると町内はもっと衰退すると思う。

秋葉バスの復旧には、ほっとした。森町病院に多くの町民が行くので。運休中は遮断されているイメージ、閉塞感があった。

春高だよりを回覧板経由で読んでいる。秋葉バスの運休中は親が会社を休んだり、勤務時間を短縮したり大変だったと思う。バス運行が再開して安心した。

3 秋葉線が廃線した場合の地域に与える影響

- ・令和6年度の春野校舎1年生を秋葉線の利用有無別でみると、秋葉線で通学しない生徒数は10人、秋葉線で通学する生徒数11人であった。
- ・秋葉線で通学する1年生は平成30年度以降概ね安定的な入学者数で推移している。
- ・秋葉線で通学しない1年生は、平成30年度から既に新規生徒募集の最低ラインを下回り続けている。よって、秋葉線が存続しない場合は、春野校舎の存続は困難である。
- ・秋葉線が廃線となった場合、春野校舎の廃校（もしくは天竜高校への統合）が発生する。
- ・廃校によって高校の存在によって地域にもたらされる全ての効果が消滅する。例えば、将来の関係人口と来町者の減少、町内でのインフラ維持の困難化、住民の転出および自然減の加速、事業所での労働力確保の極めて困難化、農地・山林の放置増加などの負の連鎖が加速され、地域の衰退が急激に進むと推察される。



4 まとめ

秋葉線の運行は、特に春野校舎への通学手段として不可欠であるとともに地域住民の生活の足としても重要な役割を果たしている。また、春野校舎の存続は教育機関の維持というだけでなく、経済的な効果、労働力の供給といった地域社会の維持にも貢献している。秋葉線と春野校舎は強い共存関係にあり、秋葉線の廃線は春野校舎の廃校を招き、ひいては地域全体の衰退に繋がる可能性が極めて高い。

以上から秋葉線は存続すべきであると考える。